

# カンボジア通信

カンボジア教育支援基金 (KEAF-Japan) 会報

2016年 6月 79号

〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5

JICA地球ひろば気付

カンボジア教育支援基金事務局

info@keaf-japan.com

http://keaf-japan.com



## 「奨学金」に多額の献金

「佐藤基金」などツアー参加者から  
「枠縮小」は最小限にとどめる

2月の「カンボジア・ベトナム・シニアツアー」に参加したメンバーの方々から奨学金プログラムを支えるために「佐藤基金」をはじめ多額の献金を受けました。奨学金プログラムは主として急速な円安の影響によって17年度(2016年9月から)以降、かなりの幅で縮小(2015年12月会報78号)せざるを得なくなっていたのですが、これで縮小幅を最小限にとどめることができます。この



ご支援に心からのお礼を申し上げます。

高校生奨学金は3年間で現在の160人から100人に減らす計画で、17年度から新規奨学生枠を半減の30人にするつもりでしたが、これを10人減に抑え、50人とします。年額\$500の大学生奨学金は\$200減額の方針を\$100減にとどめます。この新しい枠組みを2019年度までの3年間維持できると考えています。

この会報が届くころには次年度奨学生を決める面接を現地で始めます。今回の担当は事務局の岡宮喜雄さんと池内秀樹さんにシニアツアー参加者のひとり、村田知壽子さんが加わりました。

100万円の「佐藤基金」は佐藤三鈴さんと姉の真百合さんが提供してくれました。佐藤さんはシニアツアーのメンバーとして、KEAFの支援を受ける子どもたちとあって、そのキラキラした瞳に強い印象を受けたそうです。佐藤さんと一緒に同校を訪問して生徒たちの歓迎を受けた皆さんも揃って、同じ思いを持ったそうです(会報78号の感想文参照。写真はプロモプロム高校のKEAF奨学生)。

## 「サッカー教室」継続を後押し

スマイル・チャリティ大会  
千葉のNPO2団体が開催

昨年末を最後に継続が危ぶまれていたカンボジア現地での「サッカー教室」に、千葉・八街(やちまた)市と芝山町のスポーツ2団体から、チャリティ・サッカー大会実施による支援の手が差し伸べられ、継続に向けて大きな励ましをいただきました。このような支援の形はKEAFにとっては初めてで、画期的なことでした。会報前号は「シニアツアー報告」で紙面が一杯だったので概要しかお伝えできなかったもので、改めて詳しく報告します。

「カンボジア smile チャリティ@しばやま」とうったこのイベントは、サッカーを通じた活発な地域活動をしている八街アカデミックスポーツクラブ(小林茂代表理事)と地域創生事業を模索している成田臨空スポーツ文化推進ネットワーク(柿原淳男理事長、通称は「キックオフ成田」)の2団体主催で、2月下旬、芝山町、同町の教育委員会、商工会など、さらに八街アカデミックスポーツクラブ所属の小学生を中心に、芝山町の中学生を加えて、父兄ら160

人が参加して行われました。

会場のスポーツ広場は、地域創生事業の一環として天然芝を植えて多



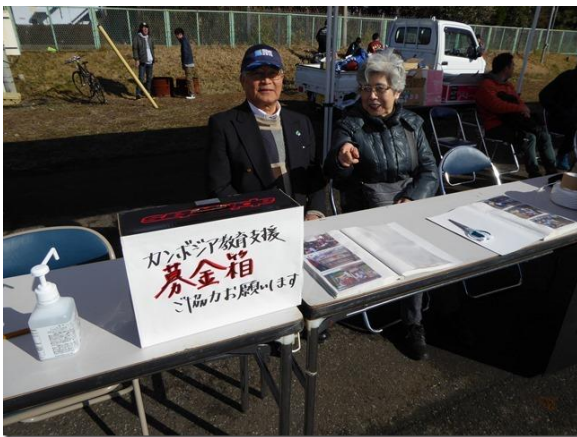
目的広場とした芝山中学校のかつての校庭です。午前9時から午後3時まで、サッカー着のこどもたちがサッカーの指導を受けたり、試合形式で練習をしたり。家族連れの参加者が多く、実施本部近くのテントに、しるこ、綿あめ、焼き芋、フランクフルトの屋台もできて、寒さがちょっと残ってはいましたが(写真はサッカーに興じる中学生—以下2頁へ)

(1 頁からの続き) おとなも子どももそれぞれに楽しい1日だったようでした。

会場には KEAF の活動を紹介するパネルや募金箱も用意されていました(下の写真①)。また文房具やサッカーボールの寄付もあり、開催側が用意した軽トラックの荷台は寄贈品でいっぱいになりました。サッカーボールだけでも 100 個ほどあります(下の写真②)。

主催者側から大会終了後ほどなく、収益金 146,829 円が詳しい収支報告書を添えて KEAF に寄付として送られてきました。KEAF への募金は「思ったより多かった」と小林茂さんは感想を述べていました。

主催者側は「これ1回だけではなく、またやりましょう」ということで、カンボジア支援の新たな企画を構想されているようです。主催の八街市と芝山町の 2 団体、参加された選手や父兄のみなさん、カンボジアの子どもたちも大喜びでしょう。本当にありがとう。(池内 秀樹)



写真①



写真②

## スポーツ振興で地域創生

### KEAF 支援の 2 団体

千葉・芝山町と八街市の NPO 2 団体が「サッカー教室」継続を支援してくれる背景には、成田空港周辺地域の「過疎化」があります。「キックオフ成田」の芝山町は空港の滑走路の南東側に接しています。

「八街アカデミックスポーツクラブ」は芝山町の西、やはり空港に接する富里町の南、空港からは 10 数キロ離れた八街市で活動しています。

芝山町と成田市三里塚は「三里塚芝山連合空港反対同盟」を組んで成田空港建設に反対しました。新左翼学生が乗り込んで、警官隊との衝突が繰り返される過激

化した反対闘争が 10 数年続いた末、1978 年にやっと「新東京国際空港」開港にこぎつけました。

以来 40 年経っても滑走路予定地の土地買収は全部は終わっていません。羽田空港の大幅な拡張がしゅんせつ技術の進歩で可能になったことで、日本を代表する国際空港の地位も揺らいでいます。周辺地域からの住民の流出が今も続いているそうです。

特に芝山町ではひどく、小中学校の統廃合が起こるなど「過疎化」が目につく町になっています。八街アカデミックスポーツクラブの小林茂さんはこうした建物や土地を活かして子どもたちのためのサッカー競技場などのスポーツ施設を作るよう働き掛けて、地域の再活性化に取り組んできました。

「キックオフ成田」は大きな夢を抱いています。緑に囲まれ空港に近いという利点を生かして、様々なスポーツ競技場と宿泊施設、ホテルをつくり、先ず国内、さらには国際的なスポーツイベントを誘致できる国際スポーツセンターを目指しています。

KEAF が始めたカンボジアでの「サッカー教室」を継続し、発展させてカンボジアとの間で、子どもたちのサッカー交流ができるようになればいいですねー小林さんとそんな話もしました(写真: チャリティサッカー会場の上空は成田空港の旅客機発着ルートにあたっていました)。





## 凶暴な巨木の破壊力

### 「戦争の証跡」に言葉を失った 旅の友との交流、大きな収穫

常葉 謙二

去る2月のKEAF企画によるカンボジア・ベトナム・シニアツアーはじつに内容の豊かな旅行であり、参加できたことを心から喜んでます。そこでの経験はまことに濃密であり、現在、撮った写真など見ながら反芻・整理している段階です。ここではその際うけた印象など、未整理のままですがほぼ時系列にそって記します。

(1) カンボジアのシエムレアップでは、早朝の昇日やトンレサップ湖ツアーにも強く印象づけられました。アンコール遺跡の塔や天女たちの浮彫は何とも素晴らしかった。しかしやはりこれらの石壁などを崩し覆い被さっている巨木の幹・根のまさに力強い存在は圧倒的でした（右の写真：タブロム寺院）。和辻哲郎はモンスーン地帯・沙漠地帯という風土論的分を立っていますが、モンスーン地帯における「生」の凶暴で破壊的ともいえる横溢を如実に経験したわけです。

(2) ベトナムでは、先ず2人乗どころか3人・4人乗のバイクの大群に驚きました。ホーチミン市の「戦争証跡博物館」では、戦争や兵器とりわけ写真を前にして言葉を失った。枯葉剤の結果を写した映像には思わず目を背けようとしたが、してはならないと身を引締めた次第です。この体験は、メコンデルタクルーズとりわけクチの地下トンネル等の見学—それぞれ心に食い入る経験でした—と一体になって、小生のこれまでの考え方・生き方に根本的な再検討を迫ってきています。

(3) 今回の旅行で一緒した諸氏との交流・意見交換も大変貴重は収穫です。石山夫人の夫君慰霊の旅の話をはじめ、性別を問わず諸氏のたとえばアフリカ・アジアでの体験を踏まえた言葉は、地方で大学人とし

て過ごした小生の蒙を啓く強い一撃となりました。

(4) KEAFの支援活動がなされている現地の学校を訪れ実際に見聞したことは、とても意義深い経験です。心からの歓迎をしてくれた若い元気な生徒たちとの挨拶の交換、写真撮り、先生方との話し合い等々、忘れることはできません。2部授業や校舎・教室不足のことなど、小学校（国民学校）で戦争中の疎開・分断授業を経験している我々世代には本当に身に詰まされる話でした。

(5) 旅行の最後の会食の席で金子会長がKEAFの現状について訴えられたことについて、一言感想を述べます。

小生は熊本に40年余り住んで、水俣病問題や北九州出身の中村哲医師のペシャワール会の活動のある程度身近に見聞しました。いささか大袈裟な表現ですが、近代主権国家・国民国家を頂点とする大企業等の権力獲得・維持にひそむ、構造的暴力、弱い立場の人々への虐げの実態をいくらかは経験しています。家人の属しているYMCAの奉仕活動を通じて、国家とは一線を画す、国境を越えた民の繋り・協力についても知見をえました。

KEAFのカンボジア教育支援を知り、すばらしい活動と感じ入り、微力ながら応援しているわけです。これからもこの活動が続いてゆくことを願っています。若い世代に是非とも継承してもらいたいと思います。そのためには、他の方々も言われていましたが、たとえば下記のことなどは有効

な方途となるのではないのでしょうか。

(イ) 活動の内実、その目的・範囲をはっきり決めて内外に知らせる。

(ロ) 日本国内における同様な目的あるいは似た性格をもつ諸活動とのネットワークを、積極的に造っていく。

(ハ) 関係する相手国（カンボジア）における協力者・関係者—奨学金を受けた学生・生徒たちも含めて—の方々の考え・意見あるいは要望などを、可能なかぎりさらに良く、「カンボジア通信」の紙面などを通じて日本の支持者に知らせる。



# ありがとうございました

(2016年3月1日～5月31日)

年会費、寄付金、奨学金を振り込みくださった方々に心からお礼申し上げます（敬称略させていただきます）

(熊本) (東京) (東京) (東京) (静岡) (東京)  
 (神奈川) (東京) (東京) (東京) (神奈川)  
 (東京) (東京) (東京) (東京) (埼玉) (埼玉) (東京)  
 (東京) (東京) (東京) (東京) (東京) (東京)  
 (神奈川) (神奈川) (神奈川) (東京) (大阪)  
 (大阪) (東京) (東京) (神奈川) (福島) (東京)  
 (東京) (東京) (東京) (神奈川) (大阪) (神奈川)  
 (神奈川) (神奈川) (東京) (神奈川) (東京) (東京)  
 (神奈川) (東京) (東京) (東京) (東京) (福岡)  
 (京都) (神奈川) (神奈川) (埼玉) (兵庫) (福岡)  
 (東京) (東京) (埼玉) (神奈川) (神奈川) (埼玉)  
 (東京) 成田臨空スポーツ文化推進ネットワーク

※お名前は個人情報なので伏せて掲載しています

※写真つき奨学生紹介の4、5、6、7頁は個人情報保護のため省略

## ◇物品支援ありがとうございました

☆ (東京) : ボールペン、書類ファイル、メモ帖など学用品 150 点 ☆ (東京) : 女性用衣類ダンボール1箱 ☆ (神奈川) : ボールペン、鉛筆、計算機 ☆ (埼玉) : ボールペン、消しゴム ☆ (東京) : デジカメ、充電器、ドットバック5個、鉛筆、定規、消しゴムセット ☆ (東京) : 色鉛筆、ボールペン、メモ帖

## ◇シニアツアーのプロモルプロム高校訪問から



図書館用に日本から英語の絵本をどっさりプレゼントした村田知寿子さん（左側）と絵本を抱える女子生徒たち。



石山陽子さんとお兄さんの中川肇さん、美禰子さん夫妻が完成間近い図書室のお祝いとしてポーン校長先生に金一封のカンパを手渡しました。

## カンボジア・ベトナム シニアツアー 希望あれば次年度も

2月のカンボジア・ベトナム・シニアツアーは「面白い旅だった」と参加者の多くから好評をいただきました。「そんないい旅行だったのなら参加したかった」という声も寄せられています。そうした希望が多いのであれば、気候のいい次の乾季（11月から2月一杯）にまた「シニアツアー」を計画してもいいかなと考えています。

今年9月から全日空（ANA）の直行便がプノンペンに入ることになりました。バンコクやホーチミン、ハノイ経由だったカンボジア行きの旅程が大分楽になり、訪問先のオプションも広がります。

関心のある方がおられたら、ご連絡ください。事務局 [info@keaf-japan.com](mailto:info@keaf-japan.com) 03-3418-7003（金子）